

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

2月

■パン製造

県内(松戸市)の中学校において「ロウウィルス」が発生し、全組合員に対し、注意報を出した。

■味噌製造

味噌出荷累計で対前年比92.5%、生産は対前年比91.8%と厳しい状況下にある。

■めん類製造

販路の主力として比較的安定している業務用(飲食店・外食向け)の落ち込みが目立っている。

■シャツ製造

中国の旧正月の関係で、今は受注が増えている(単価は減少)。

■製材

需要は依然として少ない。お客様も少量買いが多くなっている。

■印刷

売上高は、前月と比較して、引き続き下げ止まりの状態からややマイナスに振れている模様。低価格提示のみが業者選定の基準にされる現状を憂いている。

■生コン製造

公共事業の減少、民間投資の不

透明感により、当面の環境は厳しい状況が続く見通しである。需要低迷により、業界の構造改革について検討を開始している。

■電気鍍金

一時的に受注量等に改善の兆しが見られたが、月の半ばからは再び悪化に転じた。全体的にはまだまだのようである。

■鉄工

低操業状態が1年半にも及んでおり、閉塞感と共に、疲弊の色も濃くなっている。大手(上場)企業の業績好転が早く、中小活況に繋がることを期待する。

■機械部品製造

2月に入り注文が増えて操業度が上がってきている状況がうかがえる。先行きは不安だが、僅かながら回復傾向にある。

■機械部品製造

業種により繁閑の差が発生している。取引先の在庫がなくなると発注が増え、在庫が満たされると発注が減るようである。

■採石

羽田D走路建設工事は2月で終了。今後は、港湾のハブ化を目指す横浜港南本牧コンテナ埠頭増設工事や東京都の最終処分場造成工

事に期待をかけている。

■土砂採取

東京国際空港拡張事業(羽田D滑走路埋立工事)が2月末をもって終了。

■総合卸売

総じて、景況回復感なし。組合員の約8割が対前年売上ダウン。

■食肉卸売

食肉消費が減少しているため、卸全体の動きが悪くなっている。

■建築材料卸売

セメントの需要量は42年前の水準まで落ち込んでいる。コンクリートから人への政策で新年度は更に落ち込むことは避けられない。

■自動車解体

金属スクラップ価格は少しずつ上がりつつあるが、仕入価格も比列して上がりつつあるため、収益状況は相変わらず厳しい。

■電気機器小売

エコポイントの影響で平成21年5月から昨年末まで、不況の中でも順調に販売は伸びた模様。その中に在っても3割近くの店はダウンしている。今年に入ってほとんど

■小売

の店がダウンしている模様。低値安定的状況。これ以上は悪

くならないでという切迫した状況である。商品回転率を上げ、ロス率を下げるため、取揃商品の絞込みが厳しくなっている。

■中古車販売

直販低迷状態が続く(軽自動車のみ上向き)。卸売市場の活況は部分的。直販動向と輸出分野の手ごたえに決め手を欠く状況。

■小売

年末からのバーゲンも終り、春物の時期であるが、消費者の動きはかなり鈍い。新入学関連品の動きも鈍い。食品関係は価格競争が一段と厳しさを増してきている。

■小売

必要なものしか買わないという姿勢が売上のダウンに繋がっているとされる。現状、消費者は必要かつ安い物への消費動向がはっきりしている。

■自動車・自転車小売

先月同様ペースダウン。新学期に向けての需要に期待したい。

■小売・サービス

今の状況がいつまで長引くのか不安。繊維関係については、ますますの不況感を募らせている。2次メーカーでは相変わらず人員削減を実施している。弱小メーカー

では廃業も話題になっている。

■建設揚重

需要の低下が止まらず、先行きの見通しが全くたない状況。仕事を受けても、料金が低下傾向。

■害虫防除

この時期としては、ネズミ等の駆除依頼が多くなっている。

■遊覧船

天候に左右されるため、2月の寒さと雨で客足が伸びなかった。

■一般廃棄物処理

年度末を目前にし、忙しい時期に入った割には、前月比並びに前年同月比とも景況は悪化となった。

■学習塾

2月に早くも中3生で退塾する者が出現するので(1月に合格してしまつた生徒に多い)、収入は減少し始める月である。

■建設

県南及び香取、山武、銚子地区の工事が減少している。わずかに空港のある成田市周辺が良い。

■貨物運送

2月も良くなくなった気がしないうちに終わってしまった。

■輸出入業

売上の前年同月比が止まった感がある。